

2023年1月22日(日)メッセージアウトライン 「神の人として整えられるために」

聖書箇所：Ⅱテモテ3：15～17

タイトル：「神の人として整えられるために」

テーマ：新しい年がスタートしました。主のみ救いに与った私たちがさらに神の人として整えられるための大切な土台が、今日の聖書箇所にしっかりと記されています。

当たり前のようで、なかなか実行に移せないのが、聖書のみことばに日々耳を傾けつつ、みことばが教えてくださる主のみ旨にお従いして歩むことです。

パウロが、自分の死が迫っているのを感じつつ、わが子のように大切に育てて来た主の弟子テモテに「これだけは」と伝えようとしているのが以上のことなのです。

クリスチャン一人一人が、また教会が堅固に建て上げられるために、その土台である「聖書」が何であるかを共に考えてまいりましょう。

1. はじめに

人間が考え出した生活の規範や、人間の思索や語った言葉も歴史の記録として残されてきました。その結果としての哲学書や科学書、辿った道を記した歴史書、さらに想像力豊かに紡がれた物語、文学書などは人間の営みの積み重ねですよね。

特に、人々が安心して生きることができるようにと考え出された各国の憲法や法律、様々な決まり事がなければ国も人々も混乱に陥って、どうすればよいかわからなくなります。でも人間の考え出した決まりごとは、時代に合わせて変化していきます。平和を求めて武力を放棄すると決めた憲法でさえ、周囲の状況で変わってしまうのが人間の造り上げたものの本質です。

しかし、「聖書のことばはとこしえの神のことば」です。世の中がどんなに移り変わっても、国の憲法や法律がどんなに変化しても、聖書のことばは決して変わることがありません。

「草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。」とイザヤ書40章8節に記されている通りです。どの時代にあっても、神のことばを理解したい、神のみこころを教えてほしいと願う者に、聖書が、み言葉が、神の側から開かれて私たちを中に入れてくださるのです。

2. 聖書の著者はだれですか？

① 16節「聖書はすべて神の靈感によるもので」

* 「神の靈感」とは「神が息を吹きかけるということ」——神が聖書の著者に聖霊によって息を吹きかけたということ

* 勘違いしてはいけないこと——靈感の意味するところ

②聖霊によって与えられる神の光

*聖霊による言葉は、聖霊によってしか理解できない。知的に理解しても、それはその人を動かす力とならない。

3. 聖書の書かれた目的は何ですか？

- ① 15節「聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。」
- ② 16節「教えと戒めと義の訓練のために有益です。」
- ③ 17節「神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。」

4. 結論

- ①イエス・キリストを信じて聖霊をいただいたクリスチャンが、聖書を読まずして、主のみこころの道を知ることはできません。
- ②聖書のみ言葉によって、気付かされたことがあるなら、それを実行しましょう。(悔い改め、果たすべき務めを果たす、等々)
- ③神の働き人としての成長は、まず日々聖書を読み神との交わりを体験することから。テモテが幼い時から聖書に親しみ、イエス・キリストを信じ、若き牧会者として様々な訓練を受け、整えられて、テモテを愛し導いてくれたパウロのような働き人とされたことを心に留めましょう。伝承ではテモテも殉教の死を遂げたと言われています。

クリスチャン一人一人がみことばを土台として成長することは、キリストのからだである教会の成長でもあります。私たちの成長は「聖書のことば」を日々読んで、そのみ言葉に聖霊の光を当てていただいて、私たちが主のみこころを正しく受けとめてお従いしていくという、その一事にかかっています。

みことばを絶えず読み、主に在る兄弟姉妹と共に交わり、み言葉の深さと広さを体験しつつ、互いの働きのために祈り合っていく時、教会はさらに前進していくのです。今年も、聖書のみ言葉を土台に据えた各人と教会の成長を目指しましょう。